



テクノファNEWS

『日本の今後 — ゼロ成長の富国論』

講師：作家・東京大学客員教授 猪瀬直樹氏

第12回テクノファ年次フォーラム(2005.11.17)において、作家猪瀬直樹氏より表記ご講演を頂いた。小泉内閣の委託を受けた「道路公団民営化」の諮問、波瀾を乗り越えて大きく前進させた。メディアを賑わした抵抗勢力との壮絶な戦いは今も記憶に新しいところである。絶妙な話術をじっくり伺おう。

2005年の日本人口は初めて1万人減少した。晩婚の風潮の中、30代後半の男4人に1人、女6人に1人は独身である。黒田さんと紀宮さまが結婚されおめでたいことである。皆さんも子供が結婚しなくて困っている人がいるんじゃないだろうか。かつては夫婦に子供二人が典型的な家族モデルだった。美智子妃ご成婚の頃から核家族化が始まる。祖父母と同居せず、夫は夜中まで働き妻は専業主婦のパターン。美智子妃も専業主婦として、なるちゃん憲法での子育てが始まったのである。皇室は夫婦子供という日本の平均モデルであった。1960年代は3世代同居が3軒に1軒あったが、2000年になると20軒に1軒に。夫婦子供世帯も5割を割った。家庭の半分が夫婦のみか独身という具合である。

男女雇用機会均等で、女性が大学を出て職場に進出する。今はなかなか結婚しない。雅子妃は総合職モデルだったが、体調を崩してしまった。そして今回の紀宮の結婚。こうして見ると天皇家の家族モデルは国民の意識を反映していると思う。つまり天皇家は国民と共にあるのだ。言うなれば国民の共感を手探りでいっているのである。今は女系天皇の話題である。

1人娘の家では婿とりが大変だ。山田家には娘、鈴木家には息子しかいない。結婚姓はどっちにするかお墓はどこにするか、どちらか家名が途絶え



猪瀬直樹氏

てしまう。困ったということで結婚しても男女別姓、両家の名前を残そうということになる。

青い服の大臣、猪口さんはお馴染みだろう(笑)。あの方は40才で双子を生んでいる。そこが男女協同参画担当大臣たる所である(笑)。これからは双子も生んで欲しい所だが、男女協同参画の時代だからしっかり休んで子育てをし、目途がいたら職場へ戻ってほしい。会社も復帰した女性をちゃんと元のポストに戻してくれ。さもないと辞めるか、或いは結婚しないで頑張ってしまう。

出生率は1.29を割った。2100年には人口が6,000万人になる。100年前、日露戦争時代の人口である。現在5人に1人は65才以上のお年寄だ。

講演：「日本の今後—ゼロ成長の富国論」作家・東京大学客員教授 猪瀬直樹氏……………1～6
【セミナーご案内】品質・環境・労働安全衛生・情報セキュリティ・ITコード体系・PM・キャリア・カウンセラー・地方版……………7～8

2020年には4人で1人分の年金を仕送りしなければならない。晩婚・非婚の人口減少社会は実は大きな社会問題なのである。紀宮は黒田さんが見つかって良かったが、このまま行ったら愛子さんの婿さんはどうなるだろう。女系天皇もいけれど、後はどうするんだ。

歳出と税収の差は拡大の一途 平成17年の税収が44兆円で歳出が82兆円、約半分を国債で埋めている。収支の差は拡大し続け、開いた様子を「ワニの口」と言う。このままだと顎が外れる。当局は2010年には「プライマリーバランスの均衡」と言うが、あと5年で大丈夫か。ワニの口を閉じるためにすぐ「消費税増税」の話になるが、消費税を上げれば消費は低迷するだろう。定率減税を止め元に戻しても高々3兆円で大したことはない。

問題の「消費税」だが欧米は20%位で韓国は10%。日本は今5%だが20%になればことは深刻になる。増税の前にやることがあるだろう。小泉首相が「在任中は消費税を上げない」と言うのは人気取りに見えるが実はそうではない。「増税する」と言うと、「間に合う」ということになる。やはり歳出82兆円のムダな部分を徹底的にカットしていかなければならないのである。

今日まで公共事業は3%づつマイナスシーリングでやって来たので30兆円が20兆円台になった。道路公団に毎年注ぎ込まれていたムダな税金3,000億円(公団に利子補給!?)も止めた。公務員を減らせとも言われている。減らすことが優先だ。

一方で税収を増やせないものか。景気が良くなれば増えると思われるだろう。確かに1990年頃の税収は60兆円位あった。ワニの口になる前、10兆円位の差なら多少借金があっても大丈夫だった。今景気もある程度は改善してきている。ここで日銀がもっと札を刷ってくれるといい、インフレターゲットである。現在経済成長率が2%、日銀券を増刷すると約3%増えて5%になるだろう。ともあれ今はゼロ金利、ムダや歳出をカットし、税収増を図ることだ。しかし当分、ワニの口は閉じない。

もう一つこういう考え方もある。政府保有の国有財産を売却することである。日本の累積借金は1,000兆円(国債800兆円、地方債200兆円)もある。国内総生産(GDP)は500兆円、売上と思ってくればいい。国民の個人金融資産が1,400兆円である。借金の大きさに察しがつこう。

さて、国有財産は実は700兆円ある。国土の25%が国有地だが、山林が殆どだから売れるかどうかは別の話で、多分誰も買わないだろう。しか

し結構いけそうな所があるのだ。

霞ヶ関一帯は国有財産である。皇居はちょっと外しておこう。国立競技場は国有財産、それを売却するか民間にアウトソースすればいいと思う。その他に金融財産もある。米国債が60兆円位、円高の外為特買いで少しずつドルを貯めたものである。米国がパニックにならないように少しずつ売る。民間でも170兆円持っているようだが、まず国をスリム化すればいい。

会社の再建ならまずムダな固定費を削る。国も徹底的に固定費を削ってから消費税を検討すべきである。小泉首相が任期中消費税は上げないと言う意味はそこにある。ひと度引上げると言おうものなら、すぐ予算の分捕り合戦が始まる。だから各省庁に最大限節約させた上で消費税にバトンタッチする。どこまでやるかが勝負だ。今、政府系金融機関の整理縮小をやっているが、各省庁が抵抗勢力になりなかなか進んでいない。公務員の5%カットも難航している。

国有財産の話に戻そう。東京駅丸の内口は正面に皇居、左前方に丸ビルがある。右前方は建築中の新丸ビルと旧国鉄ビル、どのビルも40階位である。ところが左を見るとそこは東京中央郵便局、たったの6階建である。局の敷地価格は1,600億円、40階ビルが建てられるから、ざっと年間150億円の利益が国庫に入る筈である。つまり34階分の収益が失われている。今度民営化されたから40階建になるだろう。民営化なくして出来ないことである。

何故そこに東京中央郵便局があるかと言えば、郵便物が鉄道で運ばれていた頃の名残である。局の裏の敷地は駐車場、赤い車がばーっと並んでいる。いま流通業のセンターは普通郊外である。車社会を前提に都市構造が変わっているにも関わらず、中央郵便局という役所は鉄道時代そのまま、大渋滞の中を赤い車でチョロチョロ運んでいる。

近くには国家公務員宿舎がある。30~40階建ビルの中でそこだけが凹んでいる。空中権が全然活用されていない。みな国有財産が有効活用されていない例である。考えれば結構やれることがいっぱいある。しかし僕が言うと寄ってたかって殴られる(笑)。「お前は何の資格でものを言っているのか」と。確かにあまり資格はないが…。

道路公団民営化では中途半端だと言われた。あそこまで出来たことは大成功だよ、冗談じゃない。何にもやらない金子勝(慶応)とか桜井よし子(評論家)がちょろちょろ言う。そういう連中が日本をダメにしているのだ。ケチをつけるだけなら楽だ。

朝日も以前はダメだダメだと言っていた。民主党は対案を出さざるを得なくなった。ダメと言う前に代案をどんどん出してくれ。ダメとしか言わない連中を相手にして大変だった、ほんと(笑)。

ここ迄の話は、人口減少社会であること、結婚しないのが増えていること、紀宮さま良かったね、そして大きいワニの口がある…と言う処である。これからは、私の著書「ゼロ成長の富国論」を引き合いに出しながら話を進めて行く。

僕が小泉首相に問題提起をしたのは 10 年前、「日本国の研究(文庫本)」の第一巻で、「官」の非生産的構造を全て解き明かしていた頃である。その頃から首相は「郵政民営化」と言っていた。寝ても覚めても民営化だと言っていたから良かったのだ。あれこれ考え過ぎると、出来なくなってしまう。宮澤さん、加藤さんらインテリ政治家は理屈をひねくるが、結局何を言っているのか分からない。インテリじゃあない人、森さんはなお悪い(笑)。

富国論でも書いたがこれからの成長は余りなく、せいぜい 1~2% 止まりだ。今は団塊の人がピークだが、やがてリタイヤして労働力率が下がっていく。ゼロ成長とは「マイナス」ではないという意味である。モデルは日本の江戸時代にある。江戸時代は開幕されて約百年は高度経済成長期にあった。内戦が終り平和になって人口が 1,600 万から 3,000 万人まで急増した。そして赤穂浪士討入りの頃、元禄の高度経済成長期は終るのである。

それ以降、幕末までの 170 年ゼロ成長が続くのである。文化文政の文化が洗練されて行く。歌舞伎、浮世絵、工芸品、農業技術、商業技術、金融技術…日本は世界一洗練された国家として存在する。その時代以後は文化文政の遺産で食って来た訳だ。大田区の町工場のように細かな手先の技術も精神構造含めてその時代に基礎が作られている。金融技術、デリバティブスも江戸時代に出来たのである。富国論の一部を引用する。

すでに江戸時代に大阪の米相場では先物取引も行われていた。堂島米会所の蔵屋敷に運び込まれた米を売買する実物市場とは別に、一定の期限をもうけ先行きが高いとみれば買い、安いと売る、実際の米の受渡しは行われず取引は帳面上であった。アメリカで開発された金融商品デリバティブスの手法も先物取引を複雑な数式に高度化したにすぎない。

いまシカゴのボード・オブ・トレードを見学すると「この取引所のルーツは日本の先物取引所であり、大阪が発祥の地である。私達の市場は世界で最初に整備された日本の市場を参考に開設されました」と英語の解説テープを耳にするはずだ。【富国論七十四頁】

この時代なかったのは「エネルギー革命」。蒸気機関車、産業革命だけはなかった。米は売値の高

い所へ持って行って売る。当たり前のことだが米相場は立っていた。流通も極めて良い。東海道五十三次もある、利根川は今の高速道で大型車みたいに運んでくる。馬の背で運ぶのは山の方だけだった。

二宮金次郎はなぜ薪を背負うのか そもそも彼は何者か。今思うに「ゼロ成長の富国論」より、「金次郎はなぜ薪を背負うのか」のタイトルにすればよかった(笑)。金次郎が薪を背負う像は今も都内に 100 はある。GHQ がこの像を壊さなかったのは修身の教科書の定番だったからである。彼が薪を背負っているのは小田原。城下町であり宿場町、流通の拠点である。そこから 2 里離れた栢山(かやま)村から薪を担いで町に行った。当時江戸の人口は百万、かなりの比率で都市生活者であった。

話はそれるが、葛飾北斎は 80 過ぎて江戸から小布施まで歩いている。平和で強盗にも襲われない。宿場宿場でお楽しみをしながら小布施まで行って、金持ちの家でふた月も逗留したら襖に絵の一枚も残せばいい。小布施あたりは山の中だが、千曲川、信濃川は河川流通で荷揚げの場所になる。それはさしずめ工業団地なのである。

いま光熱費といえば家計の 6% 位だが、江戸時代は 15% 位燃料費が掛かった。金次郎はすぐ金になるものを担いで売りに出か掛けた訳である。町に出れば情報ネットワークがある。彼は勉強家でインテリの卵だから、家老から息子の家庭教師を頼まれた。中間として奉公に入ってみると家老の家は借金まみれだった。江戸を往来し、見栄もあるからいいものを着る。借金だらけで財政再建も頼まれた。そこで彼は何をしたか。

彼は女中にまず釜を磨けと指示し、釜を磨いた煤(すす)を持って来させた。煤一升を 2 文で買ってやる。当時は米炊きのほか風呂も釜、釜だけである。一生懸命磨いた結果、10 本使っていた薪は燃焼効率が良くなって 2 本浮いた。家中では 20 本浮く。2 割のコスト削減を実現して、彼はその余剰をファンドにして複利で運用した。貯めた 4 両が 45 年複利で 2,000 両になるという。合っているんだ(笑)。そういうことを考えるから逸材なのである。燃料は柴や薪だ。柴は入会地で取っても怒られないから自分の家の飯を炊く。だからこそ薪なのである。薪は勝手に取ると盗人になるので箱根の奥の山を二足三文で買った。その山から薪を取って(生産)、担いで運んで(流通)、売る。一人でやる生産・流通・販売で利益率は凄い。

皆さん、金次郎は何を読んでいると思う？ 私の本を覗いて見た。そしたら作家になった(笑)。

全部漢字の「大學」を勉強していたのである。金次郎像の顔はすべすべで、目が細くて可愛い。しかしあれは嘘である(笑)。江戸時代の平均身長は150cm位しかないが、金次郎は180cm以上、さしずめダンブカーである。更に一貫した生産・流通・販売は凄く効率がよかった。いっぱい担いだ奴は他にも大勢いたが、名は残していないのである。

そうして薪を売って貯めた金でファンドが出来る。どう運用したか。当時1割~1割5分の高利貸から借りる人が多かったから、借り替えをしてやったのである。低利だからお得意はどんどん増え、また低利だからきちんと返す。金次郎ファンドで1万両貯まったのである。金次郎が今どきの輩と違うのは、それを行財政改革に使ったところだ。小田原藩の改革、幕府諸藩の改革、農村の改革、そこに投資して行くのである。そこが金次郎の偉いところで世の為、人の為に働いたということになるのである。

修身の教科書では儉約した人、人の為に働いた人とししか書いてない。しかし実際は極めて今日的な発想でやったのである。金次郎はいろいろな村に行く。村も中小企業である。トヨタの人が生産工程をチェックし鉄で切り張りして行くように、そういうことをやって村を再生して行く。その教えやノウハウが段々関東から静岡県へと広がって行った。そして愛知県の端っこまで辿り着き、そこに豊田佐吉の父が居たわけである。そこにコスト削減の思想が流れ込み、そしてトヨタに繋がっていく。だから金次郎は偉いのである。しかし金次郎の行財政改革も挫折する。それは役人の壁であった。彼ですら思うようにならなかった。このことは僕も身に沁みて感じている(笑)。

最終的には行財政改革につまずき、黒船が来て明治維新になる。明治維新はすんなり行った。何故なら圧倒的な経済力、軍事力、技術力を見せつけられ、素直に取り入れることが出来たからである。それは文化文政期ゼロ成長の時代でありながら現状維持をし、中身を深堀した商業技術や農業技術、工業技術を持っていたから近代化に成功したのである。急にフィリピンに持って行ってやれと言われても出来るものではない。

そこが「ゼロ成長の富国論」の出発点である。維新は270年に及ぶ江戸時代の技術の蓄え、ノウハウの蓄え、それがあったからこそ出来たのだ。今の行財政改革は確かに大変だが、本来持っている大田区の町工場の技術にしる、様々なものを活かせばうまく行くのではないか。少子高齢化でかなり大変ではあろう。この辺が締切りだから分か

ってくれよと言うしかないが、今の若い人は結婚しない。次に行く。

郵政民営化の背景 ~「利子補給金」のカラクリ~

何が問題か、なぜ郵政民営化なのかざっと述べる。郵政公社には220兆円、簡保にも120兆円の金がある。220兆円と言えば東京三菱、みずほ、三井住友、UFJ全部合わせたものに匹敵する。簡保120兆円は日本生命、第一生命、住友生命、明治安田生命合わせたものと一緒である。「官」の金と四大メガバンク、四大生保と一緒にのだから、半分社会主義である。日本のど真ん中にあるベルリンの壁を低くするのが小さな政府へということである。

我々が銀行に金を預ける。それを貸出して金利を稼ぐのが銀行の運用である。郵便局ではどう運用するか。道路公団はじめ政府系の公社・公団、政府系金融機関に貸出すのである。道路公団は更にずうずうしい言訳をする。我々は民間では出来ないことをやっているから採算が合わない。だから返済に当っては政府が金利を補えと言う。つまり一般会計から利子補給金を入れると言うのだ。「利子補給金」という名前の付け方が凄い。住宅ローンの利子を税金で補給してくれれば助かるよなあ(笑)。利子補給金は道路公団だけで3,000億円入っていたのである。頭に来て実態を調べて見た。

道路公団社宅は1,000戸が空き家 職員8,300

人に対して社宅は7,300戸もある。空き家が1,000戸あっても気にしない。僕が「売ったら」と言うと、「売ればいいんだろう」と言う。全く考えられないことだ(笑)。7,000坪の土地にホテルがある蓼科の保養所は1泊2食4,000円位、内輪で使っているから僕も知らなかった。20億円も掛けたものを最低価格1億2,000万円で売りに出した。それがまるで叩き売りだ。国民の財産なのだから適正価格で競争入札させて返せ。そういうものがあることを我々は知らされていない。また、驚いたことに一戸建住宅がたくさんある。杉並区で72坪・鉄筋2階建て社宅に、課長が住んでいる。調べるからと行ってみるともぬけの殻。慌てて引越ししたらしい。家賃は6万円、今時ワンルームだって借りられない。その類がいっぱい。いちいちやっていると疲れるけど、いちいちやったのである。

非常に不思議な話だが、結局こういうことが分かった。道路の予定地に家があると退いて貰うため代替地をA、B、C、Dと用意する。選ばれたB以外は余る訳だが売却しない。年度末になって余っているからと自分達の社宅を建ててしまうのだ。保養所がなんと32ヶ所もあった。その半分は「分室」名義で、台風や大雪の時に泊まるためのものだ

という。しかし保養所パンフには『東京タワーに近い、東京ディズニーランドに近い、ご家族でお出かけを…一泊 1,980 円』と書いてある。何が台風と大雪だよ(笑)。冗談じゃあない。

この世界では平気でやっているのである。金はじゃぶじゃぶ入ってくるし、期限がないから借金は適当に返している。そんなこんなで頭に来たから、「あんた方は道路公団だと思ったが、住宅公団みたいだな」と言ってしまった。我々の通行料金を自分達の住宅を建てているのである。

コストをこまめに見直そうということになった。まず 1 km 毎にある非常電話、こういう分かりやすいものから取上げていけばいい。外箱の値段は特注だから 25 万円だという。全国に 2 万台もあって特注でもあるまい。冷蔵庫でさえ 15 万円、ただの箱がなんで 25 万円もするのか。仕様は防虫・防湿構造アルミダイカスト。虫がアルミを食うのか？虫は食うらしい(笑)。諸経費 35 万円も怪しいが現状では 257 万円/台。普通の箱で携帯電話にコードを付けられればいいではないか。関係機関との協議試案では 42 万円。8 割引になる。

工事中の第 2 東名、橋脚もあそこまで出来ちゃったら造るしかないだろう。但し 3 車線は 2 車線でいい。トンネルの単価 160 億円/km は 2 車線なら 70 億円で 56%引きになる。後は規格の見直しなどで詰めていくしかない。

残りは「談合問題」である。落札率は鋼鉄製の橋 97.5%、コンクリートの橋 97.6%、トンネル工事 98.2%、土木工事 97.6%。明白な談合だ。100 億の



工事を 98 億で落札するのである。業界用語「5キ」、電気、植木、塗装(ペンキ)、遮音壁、標識の 5 つ。これもみんなつるんでいる。つるむのが「かずら」、天下りがいっぱい絡んでいるから「かずら会」と言う(笑)。私は落札記録と OB 名簿と重ね合わせ、落札率と天下りの関係を図式化して示した。

実質的な社長である内田道夫副総裁に「かずら会」組織のことを聞くと、「私は新聞で知った」と言う。彼のその嘘が命とりになった。TV で嘘がばれ、世論が高まったから一気に警察が動いたので

ある。「明日にも家宅捜索か」、報道は早かった。公団内部の知人から「猪瀬さん、ダンボール箱に詰めています」と電話がきた(笑)。それでいい。警察も分かり易いし、隠したものを押収すればいい(笑)。パソコンも全て消されていたが、プロはすぐ再生出来る。「あ、これは消したな、分かりやすい」(笑)。800 箱押収、夜中 3 時迄掛かったのは、消したデータ起しのためである。そのデータで逮捕、起訴されたのだ。鋼鉄橋の方は今、80%位に下がっているようだ。他の方は逮捕されていないから相変わらずらしい。私には精一杯状況証拠までしか攻められない。とりあえず、2,000 km 20 兆円と言われていたのが、約半分 10 兆円位になった。有料道路会社が 7.5 兆円、新直轄方式(税金)で 3 兆円だ。

しかし腕力の強い人達がいるとだめになる。四国には 3 本も(真っ赤な)橋を架けちゃった。後藤田さん、宮澤さん、亀井さん、大平さんといった大物がね。問題なのは「抜本の見直し、事実上凍結」の部分である。日本人は全く甘い。神戸製鋼の専務が西会社の会長になって、凍結予定のところやりたいと言いつつ。彼は結局、関西経済界に追い詰められたのだ。関西は地盤沈下だから 1 兆円が欲しいらしい。太田知事は官邸に陳情するわ、大津・上陽の議員もわんさと来る。20 兆を 10 兆に削ったわけで、今迄では考えられない凄惨なことなのに、削った分の中の復活戦を狙っている。何を考えているのかね。私だって成功報酬を貰いたいよ(笑)。ここは道路会社、ここは税金でというように優先順位を決めてやればいい。その代わり一車線にして時々追い越し車線、それでいい。

削った代わりに、高速道路の料金を下げたが、皆さんは知っているかなあ。ETC へ加入している人は手を上げて？少ない！。ETC は首都高 60%、旧道路公団系は 50%を越えている。年齢層が高いのか(笑)。東京から御殿場まで行くと 2,500 円が 1,250 円になる。午後 10 時～午前 6 時の間 1 分かすればよい。但し 100km 迄だから超える直前に IC を出て入り直すのだ。庶民は知恵を出さなくちゃ。

首都高は午前中が 680 円、15 時まで 630 円、18 時まで 680 円、22 時までが 630 円で以降深夜は 560 円になる。日曜日は一日中 560 円だ。名古屋の都市高速は 750 円。東京よりずっと小さいのに 750 円はおかしい話だが、4 公団に入らない県だからだ。大阪の阪高、夜は 1 割引。それは「環境派」が居て、「夜、うるさい」と言うから 2 割引はやめて 1 割引になった。名古屋は地方通勤圏なので朝 6 時～9 時と、夕方 5 時～8 時が 5 割引となる。5 万円ハイカで 58,000 円分乗れた既得権の割引

率 14%は、マイレージで残した。

建設の総投資額が減っている。建設は平成4年の84兆円をピークに減り去年は52兆円。公共事業は今度20兆円を切るがしょうがないことだ。

農業と建設業の従事者が1980年に逆転 1960年農業従事者1,300万人、建設業従事者は250万人、約5対1だった。1980年比率が逆転、農業は1/5に減り260万人、建設は620万人2.5倍になった。

雇用人口は6,400万人だから10人に1人は建設関係だがもう新しい仕事はない。この減った分を埋め合わせるにはどうするか、難しいけれど。

日本の総世帯数が4,700万世帯で、専業農家はたった1% (40万世帯)だ。65歳以下の男子がいるのはその半分で、跡取りがいない。空洞化した日本の農業はもう減びているのである。もう歳で力尽きたが息子は上京したままという処で、遊休農地が約1割。農地は3年も放置すれば元に戻らない。熊が里に来るのは台風のせいもあるけど、どこまで出ていいのか境目が分からなくなったからだ(笑)。悪い奴が冷蔵庫やバイクを捨てるのも耕作放棄地である。そうして荒れて行くのである。

攻めの農業へ転換は可能 農業は成長余力が大きい分野である。日本のGDPは500兆円だが、そのうち80兆円も食っている。農業産出額は9兆円で1割に過ぎない。水産を入れても10.5兆円。食料自給率40%というのは嘘、米だけの自給率だ。米だけでは40%だけど、金額ベースでは自給率10%なのである。それでいいのか。

日本人は、吉野家はいま休みだが牛丼は好きだ。フランス料理も食うし、北朝鮮のアサリも食べる。野菜も随分食うし、世界一、味にはうるさい。

実は先進国が農業に凄く頑張っているのである。農業は発展途上国だと思ふのは大間違いである。確かに途上国は農業しかないが、それで食うに精一杯である。しかし先進国は農業を工業化し多くを輸出している。2002年日本の輸出額は1,600億円、米国は5.6兆円で日本の35倍規模。フランス3.5兆、オランダ3.3兆、ドイツ2.6兆、カナダ・豪州が1.6兆、みんな兆円台で頑張っている。

付加価値の高い日本の農産物は、戦略次第で農業輸出は1兆円産業を目指せる。以下は小泉首相の挨拶である。【2005.1.13 『農業・農産漁村の明日を語る会』での挨拶から】

「人間にとって最も大事な産業と言える農業、日本はいま大きな転換期を迎えている。かつては農業に従事していた方がどんどん建設産業に移って行った。公共事業の予算削減に伴い工事も縮小されている。そして雇用問題にまでなってきた。

そういう問題を総合的に見直してはどうかというのが猪瀬氏の発想である。道路公団民営化だけではない。実現できるかなと思っていたら本当に出来た。大きな成果である。しかしここで終りではない。

日本の農産物は安い外国品には太刀打ちできないし、守りの輸入阻止も無理である。しかし高いものでも美味ければ売れるということが分かってきた。北京では1個2,000円のりんご、1粒300円のイチゴが売れている。日本の米は美味いと10倍の値段でも売れている。

これからの農業は攻めの農業である。美味しければ売れる。建設に従事していた人も、フリーターも、農業に関心を持ち始めた。農業に愛着を持って喜びを味わって欲しい。」

農業を工業としてやる、大田区の町工場のセンスでりんごを作るのだ。世界一いい筈である。せっかくいいものを作っても、それが産業化できていなければだめだ。皆さんも千疋屋で1万円のメロンをお見舞に買った憶えがあるだろう。それが贈答社会である。中国はいま二極分化の世界で金持ちがいるから、世界一美味しいものが売れるのである。コシヒカリもどンドン売れている。

ここでフリーターとか建設業とか外食産業の人がどンドン農業に入り始めたのである。あまり目立たないけれど今年6月に法律を改正したからである。まだ壁はあるが今まで出来なかった土地のリースが可能になった。レストランチェーンのワタミは千葉や北海道で自分達で作っているし、人材派遣のパソナは大手町野村ビル地下で野菜の栽培をしている。一回見に行くといい。フリーターがそこでちょっとかじってから、岩手や和歌山に行つて農業をやるのである。

皆さんも砂遊びや庭いじりの感触は憶えているだろう。ニートみたいな人こそそういう処で生きかえらなければいけないのだ。建設業の人もいろいろやっている。建設関係の私の知り合いは、義経の平泉からリンドウをどきと送ってきた。地場の20~30人の会社で売上10億円位。リンドウは3,000万円の売上で利益300万円、利益率は10%で結構いい。あちこちでいろいろやっているが、それが広がれば雇用も拡大されて行く。

ぜひ大きなデザインで考えて欲しい。今迄の土地は農業生産法人しか出来なかった。構造改革というのはこういう壁を取り払うことである。株式会社企業が農業をやるのもOKだという法律改正まで来たのである。そういうことを含めて日本のこれからを考えて貰えればということで話を終りたい。

【以上】